

わんしょた音声作品

『クールできびしい、たまにちょっとやさしいお師匠さまと、森の庵で淫遁生活』脚本

03.魔女の秘薬の実験台・パイズリで性欲処理

場所：魔女の庵・弟子の部屋

いるのかしら？ 入るわよ。

ねえ、少し頼みたいことがあるのだけれど……

あら？ 何を慌てているの？

……ノック？

なぜそんなことをする必要があるのかしら……

ここはあなたの部屋である以前に、私の庵でしょう？

その一室に入るのに、ノックなんか要らないわ。

まあ、自慰行為をしていたのなら

その慌てようも理解できなくはないけど……

そんなことはないわよねえ？

あなたの精液は、定期的に採取しているし……

自分の手ですることは、私が禁じているものね。

……ま、いいわ。

考えてみたら、あなたが私の命令に背くなんて

大それたこと、できるわけないし……

大方、急に私が入ってきて驚いただけだろうし。

あ、そうそう。

それで、用と言うのはコレのことなんだけど……

わかる？ この瓶の中身……

そう、新しい秘薬ができたのよ。

材料は、先日あなたが採ってきた薬草に……

あなたから採取した、精液ね。

……？ 何を赤くなっているの？

魔女が秘薬の原料に精液を使うなんて、

別段珍しいことでもないでしょう？

効果は、滋養強壮・栄養補給……
後は一時的な肉体強化ね。

これを……あなたに飲んでもらおうと思って。

……あら、その顔は何？
不満なの？ ふうん……

そのひ弱な身体に少しでも力をつけて、
私の役に立たせてあげようとしているのに……
それがイヤだと言うのね？

……え？
なんだ……そんなつまらないことを気にしていたの。

たしかに元はあなたの精液かもしれないけど
調合の過程で完全に変質しているんだもの。
気にすることはないわ。

……それともなあに？
『師匠』にはおしりの穴まで舐めさせておいて、
あなたはコレを飲むことを拒否するというの？

ふうん……

よくわかったわ。
『師匠』である私の言うことが聞けないというのね。
へえ……

残念ね。
こんな簡単な実験台も務められない弟子なら
もうここに置いておく理由は……

…………え？
聞こえなかったわ、もう一回。

…………
そう、飲んでくれるの。
では、お願いね。

はい、コレ。

……ええ、もちろん。今、ここでよ。

安心しなさい、危険はないはずだし。

何かあったら……その時はその時ね。

さ、飲みなさい？

……まだ決心がつかない？

しようがないわね……

それじゃ、私が合図を出してあげるから
一気に飲んでしまうのよ？

はい……3、2、1つ……

.....

……ぜんぶ飲み干せた？

そう……えらいわよ。

効き目はすぐに出てくると思うわ。

そう……こうして話している間にも……

……ほら、効いてきた。

体温が上がってきたのかしら？

すごく汗をかいしているみたいね……

心配いらないわ。

身体中の組織が、薬に反応しているだけだから……

ほら……フラフラしていては危ないから、

ベッドに横たわりなさい？

どう？ 意識ははっきりしているかしら？

ほら、身体がどんどん熱くなってきた……

ドクドク、ドクドク、血液が駆け巡って……

まるで身体全体が大きな心臓になったよう……

おへその下から、力が湧いてくるのを感じるかしら？

そこは全身の気が集まるところだから、

意識を集中させてみなさい？

……ほら、わかるでしょ？

下腹部が熱くなってきて、
身体の奥底から、力がどんどん、どんどん……

…………あら？

ズボンが膨らんでいるわね……
あなた、もしかして勃起している？

ふうん……
たしかに力が湧く薬を作ったつもりだったけど……
そんなところが元気になってしまうとはね。

ふんふん……ホルモンが刺激されたのかしら？
体力ではなくて性欲が呼び起こされる……と。
滋養強壮ではなく、単なる精力剤としてしか使えなさそうね……

…………え？
ああ、心配することはないわよ。
どうせこれ以上の副作用は起きないでしようから。

……なぜこんなに落ち着いているのか……ですって？
そうね…………
まあ、だいたいこうなることは予想がついていたから……かしら？

……あら、騙してなんかいないわよ？
私は確かに肉体強化の秘薬を調合してきたんだから。

……ただし。
私が作ったレシピ通りの原料なら……ね？

あなたが先日採ってきた薬草……
どうやらあの中に、よく似た別の草が混ざっていたようね。

……ええ、たぶん違うと思っていたわ。
別に死ぬような症状が出るわけではないし、
責任は、違う薬草を摘んできたあなたに取られればいいわけだし……

それにしても……本当によく効くわねえ。
身体中の力が、すべてオチンチンに集まってしまって身動き一つとれない……
といったところかしら？
さすが私が作った秘薬ね……♪

……え？ どうしたらしいって……

仕方ないわね。特別に自慰を許すわ。

秘薬の成分と混じってしまったから、
どうせ一度は射精しきらないと、
あなたがいま溜めている精液も使い物にならないだろうし。

さあ、どうぞ？
遠慮しないで、自慰をしてみせなさい？
オナニーと言ったほうがわかりやすいかしら？
それともセンズリ？ マスターべーション？

何をモジモジしているの？
身体を動かすことができないと言っても、
自分でオチンチンをシゴくことくらいはできるでしょう？

……ひよつとして、恥ずかしがってる？
もう、何をいまさら言っているのかしら。
……ああ、それか、もしかして……

私にヌイてもらうのに慣れ過ぎて、
もう自分の手で気持ちよくなることができないとか？

はあ……おかしな癖をつけてしまったものね。
私がいないと、オナニーもできないの？

別に、私が処理をしてあげてもいいけど……
摘んでこいと言われた薬草は間違えるわ、
『師匠』にチンポはシゴかせるわ……
ほんと、役に立たない弟子ねえ。

はい……ズボン、おろすわよ？

……ふうん。
いつもより、一回りくらい大きくなっているのかしら？
これも秘薬の効果のようね……

……？ そんな目で見なくても、シテあげるわよ。
普通の男なら放置しておくところだけど、
一応は師弟の情けというものがあるものね。

……うん。
見事なまでに勃起しているわね……
小さい包茎ちんぽのくせに、

手のひらの中で一人前に主張しているみたい。

それじゃ、シコシコするからね？
私の手を煩わせないように、さっさと射精するのよ？

ふつ……ん……うん……
すご……脈動も、いつもより倍くらいには
増しているわね……

私に触れられるまで、苦しかったでしょう？
サオ全体が熱くなって、ズキズキ痛がゆくて……
ん……う……ふ……

ほら、自分でも腰を振りなさい？
……それすらもできないの？

まったく……
相変わらず、私がいないと何もできないのね。
少し甘やかしすぎたかしら……？

ふ……ふ……ん……ふ……

……もう出そうなの？
いいわよ、薬のせいで感度が高まっているから……
早くても、恥じることはないわ。

さっさと射精して落ち着いてくれれば
私も楽だしね……

ん……んつ……ふう……

ほら、イキなさい……
薬で敏感になったオチンチンの中で作られた急造精液……
見ていてあげるから、射精しなさい？

ほら……ほら……ほら……つ。

//射精

…………つ。
……つ……ん……つつ。
ふう……ふう……

.....こ～ら。
射精しろとは言ったけど、
顔にかけていいなんて、誰が言ったのかしら？

まあいいわ。
これであなたも落ち着いたでしょうから、
一緒にお風呂で身体をキレイに…………あら？

ちょっと、なんでまだ勃起しているのかしら？
.....興奮しすぎて、収まりそうにない？
まったく……我ながら、よく効く薬を作ったものだわ。
優秀過ぎるというのも考え方のね？

.....いいわ、乗り掛かった舟だしね。
最後まで相手をしてあげるわ。
それに、薬の効き目がどれだけ持続するかも
確かめておきたいし。

それじゃ、また手でほしい？
.....それとも……
さっきからチラチラ盗み見て気にしている、
胸を使った方がいいかしら？

.....オチンチンが、ビクンと跳ねたわね。
本当、分かりやすいコ……

いいわ、少しでも多く興奮したほうが
早く射精できるだろうし。

ん、しょ……

あら？ 私がおっぱいを出しただけで
オチンチンの硬さがさらに増したわね。

見ただけでこれなら……
こうされたら、あっという間に射精してしまうんじゃない？

んんつ……

.....んふ、なくなっちゃった、
あなたのオチンチン。
小さいから、全部入ってしまったのね。
それとも、私の胸が大きすぎるのかしら？

.....ふうん?
さすがにこれだけでは射精には至らない、か.....
敏感な部分で、
柔らかいおっぱいの感触を少しでも長く楽しみたくて
ガマンしているだけなのかもしれないけれど.....

まあ、私のすることには変わりはないわ。
あなたの大好きなおっぱいでシゴいてあげるから.....
さっさとパイズリ射精、してしまいなさい?

ふ.....ふつ.....う.....ん.....ふ.....ん.....
ふう.....ふ.....ん.....ん.....ん.....ん.....

.....こら、締まりのない顔をしないの。
口の端からよだれが垂れているわよ?
ふつ.....ふつ.....ん.....

そうね.....胸の中、ヌルヌルだわ.....
いまあなたが出した、精液のおかげでね。
ふ.....ふ.....

それに、尿道に残っていたザーチーが、
パイ圧でシゴキ出されて.....
すべりがよくなつて、余計に気持ちよくなつて、
カウパーをドプドプ分泌して、さらにヌルヌルが増して.....
私が何もしなくても、勝手に射精してしまいそうね?

ほら.....試しに自分で動いてみなさい?
私の胸、自由にしていいから。

普段は見ていることしか許されない
『師匠』のデカパイ.....
今日だけオナニーに使うことを許してあげる。

両手で抱え込むように鷺掴みにして、
処女を犯すときのゴブリンのようにガムシャラに腰を振つて.....
オナホにコキ捨てるみたいに、『師匠』の胸で、
子種汁を無駄撃ちするの.....見せてごらんなさい?

.....動かないの?
それとも、まだ動けないの?

もしかして、尊敬する『師匠』の胸を
そんな風に使うのは気が引けるのかしら？
パイズリオナホの中で今にも破裂しそうなオチンチンは
「イキたい、イキたい」ってウズウズしているようだけど……

…………ふう。面倒なコね。

ほら……ほら……
これでいいのかしら？
まったく、『師匠』に動かせて……手間のかかるコ。
ふ……ん……

せっかくオナニーしていいと言われたのだから
覚えたての子猿のようにガツガツと腰を振ればいいのに。
私の身体を自由にしていいと言われた男なんて
都にだって、数えるほどしかいなかつたのよ？

ふ……ふ……ん……ふ……ふつ……ふ……

……中で震てる。また出そうなのね？
相変わらず堪え性がない……
いえ、堪えるつもりもない早漏チソボね……

ううん、謝らなくていいのよ？
今のあなたは、別に女を満足させる必要もない……
秘薬作りのために飼われている、ザーメンタンクなんだから。

ガマンもテクニックも必要ない……
ただ私に精子を提供するだけの装置であればいいの。

いま私が胸で奉仕しているのは……んつ……ふ……
言ってみれば、設備のメンテナンスね。
ふ……ふ……

だから、あなたもせいぜい楽しむといいわ。
都の娼婦だって、こんな極上パイズリ奉仕は
できないでしょうから……
楽しんでおかないと、損をするわよ？
ん……んつ……

はい、いいわよ？ 出しなさい？
おっぱいの中で、ビュー……ビュー、よ？

ふつ……ふつ……

ふふ……脚、ガクガクしてる……♡
いつでもいいわよ?
おしつこみたいに、このまま谷間の中で
黄ばんだ精子、排泄しなさい……?

ほら……ほら……イッて……?
イクのよ……イクの……
イキなさい……イケ……イケ……イケつ……♡

//射精

…………つつ！ ! ♡♡♡
ふつ……あは……♡

//乳肉=ちちにく

いいコね……言われた通りに、ちゃんと出せて……
いきおいも、ぜんぜん衰えない……
乳肉をかき分けて、ビュービュー、ビュービュー……
弟子のくせに、『師匠』のおっぱいを孕ませようとしているのかしら?

……♡ ……♡
…………ふふつ。

止まった? イクの終わった?
……そう、気持ちよかったです。

…………あら?
ふふつ、でも……困ったわねえ♡

あなたのオチンチン、
おっぱいの中で、まだ元気で……
ズボンの中に帰る気が、ぜんぜんないみたい♡

まったく……躊躇のなっていない下半身ね。
主人は大人しくていいコなのに、
ココはどうしてこんなに聞き分けがないのかしら……

……ふふ、まあいいわ。
どうせ抜かなければ元に戻らないんでしょう?

そもそもの原因は、あなたが薬草を間違えて摘んできたことだけど……、
私にも責任の一端は少しあるし……最後まで面倒見てあげる。

でも、今度は自分で腰を振ってみなさい？
二回も射精したのだし、
少しは身体を動かせるようになったでしょう？

ん……あ……
そうよ、ゆっくりでいいわ。
中に溜まった精液がローションになって、
動くのは難しくないでしょう？

ふふ、みっちりした谷間の中で
やわやわ心地よい締め付けに包まれて……
自分が出したザーメンローションで
パイズリオナニーする気分はどうかしら？

んあ……あ……は……あ……あ……♡
ほら、がんばって？
腰を振るのをやめても、私は動いてあげないわよ？
自分の意思で、『師匠』の胸を犯して……射精するの……

ん……はあ……は……んん……ふつ……は……
はあ……は……は……ふ……ふ……んう……

……ふふ、動きづらい？
腕は伸ばせる？

伸ばせるのなら、胸を抑えてみなさい？
ムニュムニュしたのを固定すれば、少しは動きやすくなるから……

……あああ…………つ♡

ふ、ふふつ……どう？ やわらかいでしょう？
あん……ほら、もっとしっかりと左右から抑えなさい？
真ん中に、寄せるようにして……
おっぱいの中をズリズリ往復している、勃起チンポを挟み込むように……
ギュウウ……って、強く抑え込むの……んっ……ふ……ふ……

ん……そそう……
固定した方が、腰を振りやすいでしょう？
ふう……ふう……んう……はあ……
まだぎこちない動きだけど、
少しはオナニーらしくなってきたわね……

.....んん.....つ♡

こ～ら、誰が乳首まで触つていいと言ったの？
まったく、すぐ調子に乗るんだから。

ふつ.....んふ.....ふう.....
はつ.....ん.....ふ.....ふ.....

.....？ どうしたの？ 乳首、もう触らないの？
別にダメとは言ってないわ。
それであなたの興奮が高まるなら、
好きなよう、いじりなさい？

.....んつ♡
は.....は.....は.....は.....

そう.....乳輪を、指でなぞるようにして.....
ここも、柔らかく形を変えて、気持ちいいでしょう？
はあ.....はあ.....

.....で、真ん中にある、大きくてコリコリしたお肉の粒を.....んう.....♡
そう.....指先で、はさみ潰すみたいに摘まみ上げて.....

はあ.....はあ.....くすっ.....
女を感じさせるテクニックはまだまだ.....といったところだけど。
薬のせいで指が思うように動かないから.....ということにしてあげるわ？

はあ.....はあ.....
.....？

ふふ.....だいぶ薬が抜けてきたようね.....
動きが大きくなって、胸の谷間からピンクの亀頭が覗くようになったわよ？

腰を振るのに合わせて、
私のおっぱいから出たり、入ったり.....
人見知りのリスのようで面白いわね。

ふつ.....ふつ.....ふつ.....ふつ.....
ふつ.....ふつ.....ふつ.....ふつ.....
.....

//亀頭舐め。フェラではなく、舐めるだけ
.....れるつ。

.....あら？ なぜ動きを止めるの？
おちんちんの先を急に舐められて、驚いた？

気にすることはないわ.....
薬が抜けて、感度が下がってきたでしょう？
おまけに、もう二回も出しているし.....
もっと出しやすいように、私も手伝ってあげようと思ったの。

.....？ もちろん、そのほうが効率的に済ませられるからよ？
いいから、あなたは黙って腰を動かしなさい。
.....ま、声を出すことは許してあげるけど。

んつ.....ふ.....
れる.....じゅる.....じゅつ.....じゅつ.....れるつ.....ぢゅつ.....

そう、その調子.....
私のベロ.....れえ～～～～～つ.....
ここ目掛けて、オチンチンを出し入れなさい？
力強く舌を突けたら、その分だけ舐めてあげるわ？

れえ～～～.....
れろっ.....れちゅつ.....はあ.....はあ.....
れる.....れろっ.....れろ.....れるっ.....

あは.....♡
胸の中でヌルヌルに浸かりきったオチンポが、
舌先まで精液を運んでくるみたい.....
れろっ.....ぺろっ.....

まだ射精を覚えたばかりの、青臭いザーメンの味.....
『師匠』の舌に刷り込ませようと、必死に腰をヘコヘコさせているわね.....

れ～.....れろ.....れろ.....ぺろっ.....べろ.....
はあ.....はあ.....れる.....れる.....れる.....♡

ん.....？ あは.....
舐められるのが効いたの？
それとも、自分の意思でおっぱいを犯しているのに興奮したのかしら.....
尿道がパクパクして、
いまにも次の精液が飛び出してきそうだわ.....♡

やっぱりまだ、乳離れのできていないお子様ね.....

胸でシゴかれるだけで、三回目の射精まで
こうも簡単に到達できてしまうなんて……
れろっ……れろ……

いいわよ……イクの、手伝ってあげる……
ちゅふつ……ちゅふちゅふちゅふ……

はっ……は……ふふ♡
どうしたの？ まだ咥えられてもいいのよ？
先っぽにキスをしただけなのに、
全身がブルブルしているじゃない……

ちゅつ……ふちゅ……ふちゅ……♡
ぺろ……さあ、出していいわよ？
『師匠』にここまでしてもらっているのよ？
せいぜい面白い声で鳴いて、
ブリュブリュザーメンまき散らして……
楽しませながら射精してみなさい？

んつ……ちゅつ……ちゅふ……ちゅふつ……
ふー……ふー……ちゅつ、ちゅつ、ちゅつ、ちゅ……

ほら……舌を出しているから……
れえ～～～つ……

ここ目掛けて、パイズリで、イッてしまいなさい？
はあ……はあ……はあ……れえ～～～～つ……♡

//射精
//舌は出したままで、顔面シャワー
んうう……つ！？♡
れえ……れる……はあ……はあ……はあ……はあ……

もう、下手ねえ……
舌だけじゃなくて……んつ、あ……
顔にまでかかっているじゃない……
ほら、ここ……イキながらでいいから、
しっかり狙いを定めなさい？

れえ～～～……

.....
.....

//射精終わり

.....はあ、イキ終わった.....かしら？
れるつ、れちゅ.....ごく.....んくつ.....

.....ふう。
まったく、『師匠』の顔を汚すのがあなたの趣味なのかしら？

あれほど舌に出しなさいと言ったのに、ほとんど顔にかかっているじゃない。
これをキレイにするよりは、飲んでしまったほうが楽なのに.....

.....？ ああ、心配いらないわ。
秘薬で変質した精液だけど、私の体内で浄化できるから.....
いくら浴びたり飲んだりしても、影響は出ないようにしているわ。

.....で？ あなたのほうは.....？
.....うん、もうほとんど薬が抜けてるようね。

安心した？ これに懲りたら、
次からはもっと注意深く薬草を見分けることね。

さてと、それじゃあ.....

パイズリの続き、いきましょうか？

.....？ 何を驚いているの？
当然でしょう、まだ全部が抜けきったわけではないんだから。

失敗作とは言え、
私の秘薬でどこまで持久力がついたかも興味があるし.....
今日はあなたが勃たなくなるまで、付き合ってあげるわよ。

大丈夫大丈夫、死にはしない.....と思うわ？
いつもの実験だと思ってくれていいから.....

それじゃ、今度は私のほうから本気で搾り取りにいくからね？
あなたは何もせず、感じるままに悲鳴と精子を出しているだけでいいわ.....

じゃ、始めましょうか。
あ~~~~~ん.....れろつ.....

//END